

JICA 専門家のカリブ奮闘記(1)

カリブの国からこんにちはー コロナ禍の先進国・バルバドスに赴任してー

はじめまして！

カリブ地域全体をカバーする総合防災政策の JICA 個別専門家として、カリブ海は「バルバドス」という国にて業務をしております中村隼人と申します。本邦だとなかなか知られていないカリブの世界、そしてバルバドスをもっと知ってもらおうと、今回からカリブ奮闘記として当国／地域での生活について数回の連載をすることになりました。観光でハイライトされる自慢のビーチの美しさにとどまらない、カリブの様々な側面を紹介できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



バルバドスのコロナ隔離先の窓から見える景色

連載するにあたってまず断っておかなくてはいけないのは、私が住んでいるバルバドスは JICA では極めて稀な「先進国」の赴任地ということです。JICA は、色々な援助機関などとの調整などの目的で、アメリカ合衆国事務所やフランス事務所といった先進国、そしてサウジアラビア・フィールドオフィスのような発展をすでに遂げていわゆる「発展途上国」から脱却した国で、これまでの成果を確認したり、定着を目指して相手国政府と窓口を設けている場合がありますが、私もそんな数少ない先進国での業務従事者の一人です。

バルバドスは面積が本邦でいうと種子島ほどの大きさ、人口は東京都豊島区とほぼ同じという小さな島国です。しかしながらコロナ禍前までは、欧米を中心に、毎月 6 万から 7 万人もの観光客が訪れるカリブの観光大国であり、かつてはロンドンから「怪鳥」と呼ばれた超音速旅客機「コンコルド」が飛来する数少ない行先のひとつだったほどです。それ故、一人あたりの国内総生産は東欧諸国と同程度。前任地(ミャンマー)から、次はバルバドスに赴任することが決まった時は、JICA 関係者はもとより、開発に携わっている欧米出身者がみな「どうしてそんないいところに赴任できるのか！」と羨望のまなざしをいっぱいに浴びてきました。

とは言え、世間はコロナ禍。日本もそうですが、世界のどこを見ても、観光業が最も打撃を受けた業界のひとつであることは言うまでもなく、私も 2021 年 9 月の到着後、青く広がる海を前に、数日の隔離を余儀なくされました。それに加え、到着後ほどなくしてカリブ地域ではデルタ株により出勤規制、学校閉鎖等が相次ぎ、テレワークが続きました。数字上では感染者は欧米やアジアなどの大きな国で目立つようなことはありませんが、デルタ株が流行した 2021 年 10 月末の時点で累計感染者数は

1万6千人超、140余名の死亡者は人口30万ほどの隔離した島では、不安感は想像を絶するものです。（同時期の人口がほぼ同程度の東京都豊島区での同時期の累計感染者は約1万6百人。とはいえ、大きな病院や区外のインフラを使えることと隔離した島の違いもあります）。地域の防災機関という一般の商業施設や会社より厳しい措置をとっている職場でも、感染例が発生したり、バルバドス外で業務をしている同僚は知り合いで11名お亡くなりになったという方もいます。

バルバドスをはじめ、カリブの国々は信仰心がとかく厚いことでも知られています。オンラインで何度か心の悩みを解消するためのカウンセリングセッションが職場で開かれたのですが、コロナ禍の中で最もつらいのは、ずばり「教会で皆に会えない事」とのこと。ソーシャル・ディスタンスをとりながらも、カウンセリングをはじめテレワークの悩み相談や、関係者でつながりを持つZoom上での取り組みが職場内で高頻度に行われました。そんな環境でのアジア人たった一人の専門家ということもあり、周りの皆さんは私が本当にカリブの生活を楽しんでいるか、気にかけてくれています。コロナ禍のカリブ赴任でまず見せつけられたのは、まさにカリブの人たちの「こころ」だったのです。

これから、私のバルバドスでの活動や暮らしの中で起こったこと、見えてきたものを綴っていきながら、バルバドスをはじめとしたカリブの国々を紹介していきます。
「JICA カリブ専門家の奮闘記」連載スタートします！



中村隼人(なかむら・はやと)

カリブ災害緊急管理機関(CDEMA)総合防災政策アドバイザー(JICA 個別専門家)

日・英の大学院(開発／法律)卒業後、本邦の防災情報のコンサルティングを専門とする NPO、国連の本邦ベースの防災協力事業、東ティモール国立オンブズマン事務所専門家(スペイン国際協力開発庁 AECID 派遣)を経て、2011 年より JICA フィリピン事務所企画調査員(防災／災害リスク削減)を延べ 6 年勤め上げる。その後 2017 年、JICA ミャンマー事務所企画調査員(防災／環境／メディア、及び広報担当)を経て、2021 年より現職。国連勤務時代の 2009 年に、JICA と国連の協力のもと、JICA 兵庫(当時)の「災害に強い学校」研修のコースリーダーを担当したのが、はじめての JICA との関わり。大学院時代の研究対象の一つがグアテマラ(先住民族の土地利用と開発)だったため、バルバドスへの赴任が久々の中米・カリブ地域の業務。

佐賀県生まれの東京都(郊外―南多摩地域)育ち。2017 年 9 月より名古屋工業大学高度防災工学研究センター客員准教授拝命。